

現状の問題と課題

【課題①】

新たな空き家の発生抑制

高齢世帯の割合が高く、今後も高齢化が進行することが予測されていることから、居住者の高齢者施設への入居や死亡、子世帯との同居に伴う転居等により、空き家がますます増加することが考えられる。

【課題②】

地域活性化のための空き家活用

少子高齢化、過疎化が進行すると、町の活力が低下する。特に都万、五箇、布施地区での空き家の増加を防ぐために、子育て世帯の定住の促進、UIターン者の受け皿としての住まいのための活用が必要となるが、住宅市場に流通する空き家が少ない。

【課題③】

空き家の老朽化の予防と老朽した空き家の解消

空き家のうち老朽化しているものが11%あり、周辺への悪影響が懸念される。空き家の中には適切に管理されているものが多いが、高齢化の進行や帰省費用の負担などにより、その管理の維持が困難になり、老朽空き家の割合は今後増えることが予想される。

計画の方向性

空き家の発生予防・適正管理

空き家有効活用

特定空き屋等の解消

空家等対策推進体制の構築

施策の例

広報誌・ホームページなどを利用した周知・啓発
 空き家相談窓口の設置
 空き家相談会の実施など
 除却費用の助成

改修費用の助成
 高齢者の集会場・サロンなど活用と管理体制の構築
 定住住宅、隠岐体験住宅としての活用、運営主体

法に基づく措置と体制づくり
 応急措置の施策

関係部署との空き家対策の連携
 地域や関係機関との連携

